

# オホーツクの風

平成29年8月17日(木) 0020号

発行所  
北見赤十字病院の  
明日を考え支援する会  
事務局  
北見市緑ヶ丘1-10-16  
Tel 0157-61-0684

北見赤十字病院

## からだの図書室

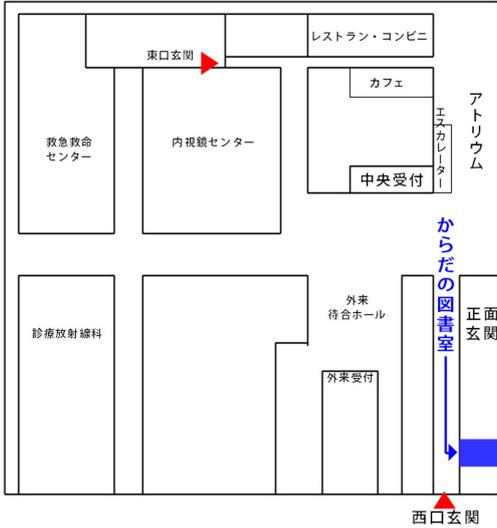
ご利用はどなたでも

平成22年秋、日赤本社が北見新病院改築の承認を受けて、「こんな病院にしたいプロジェクト実行委員会(会長・古屋聖児氏)」が発足し、当会も委員となり意見を述べた。平成23年1月、実行委員会は吉田院長に答申書を手渡し

た。その文書に「(設備面)③患者図書及びインターネットコーナーの設置」が表記されている。これを受けて、吉田院長の決断で新病院の設計に図書室が折り込まれた。先日、その「からだの図書室」を私(逢坂)と会の阿久津さ

んが訪れ。総務課長、図書室を管理する医療社会事業部・医療福祉課の担当の方、そして図書管理担当の元総務課の方と懇談した。

現在、蔵書は2185冊、利用は月に300人前後(内入院患者が1000人程)とのこと。開設当初は1000冊ほどでしたが、



その後、元図書司書や患者さんの要望等を聞き、新規購入した本や入院患者さんから退院時に贈呈を受けたものなどが書架に並んでいる。背の赤印は医学関係の書籍で全体の25%、背の緑印は食事関係で30%、残りの背の青印は小説など一般書籍の区分です。個別のブースにはパソコンが置かれ、インターネットに繋がっており、いつでも利用出来る。入院患者には曜日を決めて、病棟を巡回する移動図書室も実施している。病院の中の図書室



### 利用時間

月・水・金  
9:00~14:00  
火・木  
9:00~16:30  
●月~金(祝祭日・病院の休日を除く)

は全国的に少なく、日赤では日本赤十字社医療センター(東京都渋谷区)等一部病院だけとなっている。

第2・3面  
第4回北見での思い出づくりの集い

第4面  
親子で病院を見学  
創立8周年記念 活動パネル展

紙面ナビ



# 第4回 北見での思い出づくりの集い 臨床研修医の皆さん ようこそ

平成29年7月30(日)、「第4回北見での思い出づくりの集い」を野付牛公園で開催。お天気は「快晴」、前日までの予報では曇りや小雨でした、お天道様に感謝です。

午前10時、支援する会の皆さん、10時半には病院の大型ワゴン車が多数のクーラーボックスを積んで到着、11時には味覚園(栄町店)・オホーツクビールのスタッフが到着して準備は整う。

## 今回のメニュー

お肉料理は牛サガリ、牛カルビ、豚カルビ、豚トロ、鶏もも肉、豚ホルモン。海鮮は小樽産揚げかまぼこ、イカ(生を前日調理、冷蔵保存)。

野菜とデザートはキャベツ、ピーマン、北見産タマネギ、にんじん、トウキビ(実の表面がプリプリの電子レンジ仕上げ一口風)、デザートはクラフトアイス(パキラとチョコ克蘭チの2種類)。漬物はキュウリの板ずり浅漬けステック仕上げ、おにぎりはごま塩風味です。

飲み物はオホーツクビール(エール)樽生サーバー出し、ノンアルコール・ゼロクリア、冷たいお茶とお水です。トウキビとキュウリは会の阿久津さんが調理してアイスボックスに入れて持ってきてくれました。

## イベントセレモニー

本日の参加は臨床研修医の先生方が1

4名(内昨年参加した2期は5名)、病院職員が18名で病院参加は32名、支援する会が13名、総勢45名です。会の谷川さんの進行で、全員が自己紹介。すぐに、会の逢坂さんがお礼と歓迎の挨拶。

研修医2期の大川美穂先生が「集いに参加して」の挨拶をし、続いて、今年から日赤で研修に取り組んでいる笹井先生が「集いに参加して」の挨拶をした。隣の空いた芝生に移動して、皆さん笑顔で記念撮影。

## 乾杯は田辺副部長

昨年から引き続き参加をしている臨床

お席の配置は2つの炭焼きコンロを連



ものすごい!! 景品が当たる抽選会



上 A-①・② / 下 B-①・②お席の皆さん

結して、大きな炭焼きの炉端を4つ、公園の木陰に並べて作りました。全員が着席し、田辺副部長の音頭で乾杯が行われ、焼き肉パーティーの始まりです。炭火の火加減も良く、和やかに大いに食が進み、オホーツクビールも2樽目です。頃合いを見計らって、会の長南さん・森實さんと森實に(3面に続く)

イベントセレモニー





臨床研修医の先生方、お一人お一人のコメント

な・れいしん・りよ  
うわちゃん抽選券  
を引く抽選会です。  
景品は会の下元さ  
ん、森實さんが提供  
してくれました。  
全員に景品が行き  
渡ったところで、研  
修医の先生方のみが  
対象の特別賞3本に  
移ります。当たった  
3人は会場の前に出  
て、景品を選んで戴  
きました。

**臨床研修医の先生方のコメント**

交流会も終盤に近づき、会の谷川さんの  
司会で、臨床研修医の先生方に会場の前に出てもらいたい思いを語って戴きました。  
▼消化器内科・産婦人科・小児科を指し、将来、北見にきたいと語る方。  
▼札幌出身で東京医科大学を卒業した方。  
▼東京青山出身で、産婦人科を目標としている方。  
▼生田原町出身で北見北斗を卒業、神経内科をめざす方。  
▼研修は2期目で

北見出身、北見北斗卒、将来は北見にと語る方。  
▼研修2期目で札幌出身、バスケットに汗を流し、女性とお話するのが楽しみと語る方。  
▼美幌出身・北見北斗卒業、空手をやっていて、黒帯ですとポーズをとる方。  
▼北見出身で中央小・北中・北斗高を卒業、歌唱力抜群と自己PRの方。  
▼広島出身、野付公園が広くて迷ったと笑いを取った



上 C-①・② / 下 D①・② お席の皆さん

▼札幌で18年・旭川1年・北見1年と過ごし、旭川医大卒、北見日赤に戻って来たいと話す方。  
▼東京出身、大学からは札幌、バイクに乗るのが趣味と語る女性研修医の方。  
▼親が転勤族で札幌・網走で暮らし、札幌医科大学卒の女性研修医の方。  
▼帯広出身で旭医大より1ヶ月の特別研修に参加の方。  
▼特別出演、北見線陵卒、日赤野球部、

目下女子募集中と会計課の方。

**協賛各社にお礼**

焼き肉は味覚園(栄町店)・(株)坂口精肉店(代表取締役社長・坂口政義)。  
オホーツクビールはオホーツクビアフアクトリリー・オホーツクビール株(代表取締役社長・五十嵐力)がそれぞれ格安の特別価格で提供して戴き、厚くお礼を申し上げます。

**お開きは一丁メ**

楽しい一時もお開きです、臨床研修医の受け入れに奔走した鈴木人事課長にお願いしました。  
参加の皆さんは全員立ち上がり、「皆さん、お手を拝借」と課長が発声すると、会場の全員が「パン」と心が揃いお開きとなりました。  
後片付けやゴミの処理など総務課の皆さんが先頭になり参加全員の協力を戴き、午後3時に事故もなく無事に終えることが出来ました。



一丁メでお開き

# 親子で病院を見学

## 子供の未来を考える

1935(昭和10)年11月30日、日本赤十字社北海道野付牛療院が開院。病長・医学博士三宅寅ほか7名、看護師30名、木造2階建て870余坪。現北見赤十字病院の始まりです。その後、何回か増改築を行い、病院は進化してきました。

安全な最新の治療をめざして、地域医療の充実に取り組んでいる。北見赤十字病院のその取り組みを市民の皆さんに知ってもらうために、今回、「親子で病院を見学」を企画した。

## 創立8周年記念 活動パネル展

### 平成29年10月 日赤ギャラリー

平成22年、北見赤十字病院で医療活動に携わる全ての人に感謝し、病院の医療活動の現状と将来を考え、支援する目的で当会は設立された。今年、創立8周年を迎えます。

2014(平成26)年12月1日、新病院が旧北見市役所跡地に開院する。近代的設備で安心

平成22年、北見赤十字病院で医療活動に携わる全ての人に感謝し、病院の医療活動の現状と将来を考え、支援する目的で当会は設立された。今年、創立8周年を迎えます。

あまり無い活動なので、一般には馴染みがなく、発足当初は活動も停滞気味であったが、最近、病院の理解も深まり、信頼関係も確立し、新病院の開院を機会に更なる活動の強化に取り組んでいる。私たちの活動を市民の皆さんに少しでも

### 北見赤十字病院



でっかい夢をみよう

平成29年 10月22日(日)

午前10時から 11時40分

会場 北見赤十字病院  
対象 小学生とその父兄・20組

お問い合わせ  
北見赤十字病院の明日を支える会 事務局 阿久津  
〒090-0067 北見市緑ヶ丘1丁目10-16  
TEL/FAX: 0157-61-0684

参加申込書  
各学校のご担当の先生にご提出願います

学年	人数	中学校	小学校	学年	人数	参加人数
保護者名		親子名		大人	名	20名

## 親子で病院を見学

私たちの活動を市民の皆さんに少しでも



8周年記念活動「パネル展」を開催します。開催は10月いっぱいです。パネルの数が多く、月の前半と後半で入れ替えて展示します。

平成27年10月、第51回日本赤十字社医学会総会が北見で開催された時、北見市立体育センター・ポスター会場の休憩コーナーに展示したパネルに最近の情報を加えてパネルを作製します。展示は会の歩みの年表、機関紙「オホーツクの風」の創刊号から最新号まで、そして北見赤十字病院の大判写真を台紙に貼り付けたものなどを展示します。

### 編集後記

平成22年4月6日、本紙の創刊号が発行された。その紙面はA3の片面2つ折り、インクジェットプリンターでプリントした簡素なものであった。

当時、旧北見市役所跡地への新病院の移転や北見市の多額の財政支援など市政の争点であった。そのことへの理解を少しでも深めようと、創刊号の1面トップ見出しは「日赤の現状を知る 支援の一步を踏み出す」で、当時の北見赤十字病院の決算を調べて記事にした。

今振り返ると、負いすぎではと気恥ずかしい思いです。あれから、幾多の人々と会での出逢いがあり、また別れがあった。本紙、20号を印刷所に送るにあたり、年月の流れを感じる。

(逢坂記)